

平成25年度 学校自己評価システムシート（県立川口北高等学校）

| | |
|--------|--|
| 目指す学校像 | あらゆる教育活動をとおして、人に親切に、人を思いやる心を常に持ち、日本及び国際社会に貢献できる生徒の育成 |
|--------|--|

| | |
|------|---|
| 重点目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1 学力の向上（満足度の高い生徒全員の進路実現） 2 体力・精神力の充実（人間としての在り方生き方指導の充実） 3 開かれた学校づくりの推進（中学校・地域へ積極的な情報発信） |
|------|---|

| | | |
|-----|---|-------------|
| 達成度 | A | ほぼ達成（8割以上） |
| | B | 概ね達成（6割以上） |
| | C | 変化の兆し（4割以上） |
| | D | 不十分（4割未満） |

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

| | | |
|-----|----------|----|
| 出席者 | 学校関係者 | 5名 |
| | 生徒 | 3名 |
| | 事務局（教職員） | 8名 |

※重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

| 学 校 自 己 評 価 | | | | | 学 校 関 係 者 評 価 | | |
|-------------|---|--------------------|---|--|--|-----|---|
| 年 度 目 標 | | | | | 年 度 評 価（1月27日現在） | | |
| 番号 | 現状と課題 | 評価項目 | 具体的方策 | 方策の評価指標 | 評価項目の達成状況 | 達成度 | 次年度への課題と改善策 |
| 1 | 昨年度、国公立大学受験者数194名・現役合格者数49名。早慶上理大の合格者数21名。MARCH合格者数117名と創立以来最高の実績を挙げた。また、超難関の一橋大、東北大、千葉大（薬）にも合格した。 課題は、 ①授業研究等を通じて、主体的・能動的な学びを促す授業を推進する。 ②生徒の高い志を育成するとともに、自学自習を積極的に実施させる。 ③蓄積したデータを最大限に活用し、組織的・効果的な進路指導の下、第1希望の進路を実現する。 このことにより、将来を見据えた生徒の進路実現に向けて、質的・量的に一層拡大する。 | ○生徒の進路を質的・量的に拡大する。 | ①「校内授業公開」「研究授業」「進学力グレードアップ推進事業」を実施し、教科会等を利用して教員の教科指導力を向上する。 ②進路オリエンテーション、二者・三者面談、講演会を生徒の実態に応じた内容で実施する。 ③分掌、学年、教科が一体となった組織的な進路指導を実施する。 ・模試やセンター試験データ等を共有化し、授業・土曜特別学習・補講に生かす。 ・データに基づいた大学受験校検討会を実施する。 ・国公立大学セミナー・県立大セミナー、埼玉大学研究会を実施する。 | ①授業公開・研究授業に積極的に参加したか。外部研修会に積極的に参加したか。 ②進路オリエンテーション、二者・三者面談、講演会を生徒の実態に応じた内容で実施できたか。 ③国公立大学受験者数220名 現役合格者55名（埼玉大学合格者20名）を達成できたか。 *今年度8クラス（昨年度9クラス） | 一歩踏み込んだ授業改善の取組を進めるとともに、生徒の希望に即した進路実現をほぼ達成できた。 ①研究授業では、「主体的・能動的な学びを促す授業」をテーマとして、特に「物理」を全員で参観し研究協議を実施した。また、教員28人が外部研修会を受講した。 ②大学出張講座等の実施、二者・三者面談実施、創立40周年記念講演会実施など、生徒の状況を考慮した内容で行った。 ③国公立大学受験者数141名 現役合格者41名 昨年は、9クラスで現役合格者数49名だったが、今年は8クラスで41名合格となった。（3月24日現在） | A | ①生徒の実態に即して一層の教科指導力の向上を図る必要がある。 ②引き続き生徒の発達段階に即して、3年間を見通した進路オリエンテーション、二者・三者面談、講演会等を再検討し実施する必要がある。 ③理系志望の受験者数が増加傾向にあるので、受験者の動向等のデータ分析を詳細に実施し指導する必要がある。 |
| 2 | 部活動加入率は90%を超えるなど部活動・学校行事・生徒会活動によく取り組んでおり、体力・精神力が高まっている。 川北生としての挨拶・身だしなみなどの基礎基本を徹底するとともに、一歩前に踏み出す力、チームで働く力を養うなど、人間力を高めていく必要がある。 | ○心身ともに鍛え、人間力を高める。 | ①生活にメリハリを付け、心身ともに鍛える部活動を行う。 ②挨拶・服装・交通マナーなど学年指導・登校指導など継続的に指導する。 | ①意欲的に活動を行い、成果はどうだったか。 ②挨拶・服装・交通マナーの状況が改善されたか。 | 生徒は教員の指導の下、教育活動全体にわたり意欲的に取り組み、発達段階に応じて人間力を高めることができた。 ①部活動加入率が96.3%。全国大会出場（弓道部・書道部）、関東大会出場（男子バスケ部・陸上競技部・水泳部・男子バドミントン部・弓道部・かるた部）等の成果を上げた。 ②来校者から挨拶・服装が素晴らしいとの多くの感想をいただいた。 | A | ①来年度も今年度と同様な活動が望まれる。 ②一部の生徒について、交通マナーを守れない状況があるので、全校集会やHR等で指導を徹底する必要がある。 |
| 3 | 地域から伝統ある進学校として、十分認知されている。 近年の部活動実績・進路実績の向上や指導体制の充実など、本校の魅力を、一層明確かつ有効に広めていく必要がある。 | ○本校の魅力地域に一層広める。 | ①中学生・保護者に本校の理解を深めていただけるよう学校説明会を改善する。 ②塾訪問を組織的に行う。 ③中学校への学校情報メール発信を継続的に行う。 ④保護者向けのメール一斉配信を積極的に行う。 | ①学校説明会により、参加者に本校を理解していただいたか。 ②積極的に塾訪問を行ったか。 ③メールによる学校情報の発信を20回行ったか。 ④メール一斉配信の登録者数が増加したか。 | 中学生・保護者、塾関係者等から、評価が高まっていることを体感できた。 ①4回の学校説明会合計参加者数が、2879人（昨年2800人）。アンケートで「ほぼ理解できた」「役に立った」方が、ほぼ100%であった。 ②夏季休業中に全校体制で220の塾を訪問した。 ③学校説明会の案内を含め13回配信した。 ④登録者の割合を増やすことができた。 72.3%（昨年68.6%） | A | ①今年度同様、入学後のアンケート調査結果等に基づいて適切な時期に学校説明会を設定する必要がある。 ②継続して塾訪問を実施する必要がある。 ③継続して学校情報を配信する必要がある。 ④危機管理上、可能な限り登録数を増やす必要がある。 |

| | |
|-------------------|-----------|
| 実施日 | 平成26年2月5日 |
| 学校関係者からの意見・要望・評価等 | |

○大学教授による授業や講演会は、様々な経験ができよかった。一方、進路などで「キャリア教育」が強調されているが、生徒に十分理解されていない状況もある。

○挨拶がよくでき、時間に関する意識が高く遅刻も少ない。服装については、大多数の生徒はよいが、一部の女子にスカート丈やセーターの着こなしがよくない状況がある。

○教員による塾訪問だけでなく、生徒による中学校訪問を実施しているとのことだが、教員による中学校訪問も再考してもいいのではないか。